

# 銀行窓販での取扱が増える 「ラップ型ファンド」の商品性と 提案時のポイント

バランス型ファンドの進化系としての活用方法

菱田雅生 ライフアセットコンサルティング株式会社 CFP®



ラップ口座のノウハウを使った「ラップ型ファンド」の新規設定が相次ぎ、銀行窓販でも取扱が増えている。ここでは、同ファンドの商品の特徴と提案時のポイントを解説する。

以前は「ラップ口座」というと、少なくとも数百万円以上または数億円以上の資産を保有している富裕層を対象に、資産をラップ (wrap)、つまりひとまとめに包んで投資顧問などが運用し、資産の一定率もしくは成功報酬のような形で手数料を徴収するものだった。

それが近年、「ファンドラップ」と呼ばれる、投資対象を投資信託に絞ったラップ口座の登場もあって、ラップ口座のハードルが大きく引き下げられた。最近では300万円あたりから利用できるラップ口座が増えてきている。図

表1にもあるように、ここ2年ほどの間にラップ口座の利用者数が爆発的に伸びていることが分かる。

さらに最近になって、ラップ口座のノウハウを使った「ラップ型ファンド」と呼ばれるファンドの新規設定が相次ぎ、銀行窓販での取扱いも増えている。本稿では、ラップ型ファンドの特徴や提案時のポイントなどについて解説していく。

## 「バランス型ファンドの進化系」と考えられる

「ラップ型ファンド」と一口に言

っても、それぞれのファンドごとに運用方針等が異なるので一概には言えないが、図表2に記載しているような「ラップ」と名の付いたファンドの特徴を一言で言うならば、「バランス型ファンドの進化系」である。

従来からあるバランス型(資産複合型)ファンドは、複数の資産

の組入比率がもともと決まっているものが中心である。そして、同じファンド名で「安定型」「安定成長型」「成長型」などのように組入比率の異なるファンドが用意され、スイッチングが自由にできるようにになっているタイプが多い。

ラップ型ファンドの場合は、複数の資産を組み合わせて運用している点は従来のバランス型ファンドと同様だが、その組入比率をマーケットの状況に合わせて変更させていくように作られている。

従来型のバランス型ファンドと同様に、安定型、安定成長型、成長型などのようにリスクを取る度合いの異なるタイプを用意して、それぞれのタイプごとの運用方針に合わせながら、機動的に組入比率を変えていくのである。そして、その組入

比率の変更については、ラップ口座のように投資顧問などの専門家からアドバイスを受けながら運用していく。

つまり、「ラップ口座と同じような専門家の運用ノウハウを、1万円程度の少額の資金から利用できる」というのが最大のウリと云っていいだろう。

では、具体的にはどんなファンドがあるのか。最近取扱いの増えている四つのファンドを挙げてみていきたい。

## 商品ごとに運用方式が異なる

### コア投資戦略ファンド(愛称:「コアラップ」)

三井住友トラスト・アセットマネジメントが運用しているこのファンドは、新興国も含めた内外の債券、株式、リートなど様々なファンドに長期分散投資を行って、中長期的に安定した収益の確保を目指しているファンドオブファンズである。そして、短期的な下振れリスクの抑制のために、ヘッジ

ファンド等にも投資し、オルタナティブ(代替)運用も行っている。

また、資産の組入比率は、市場環境の変化に応じて定期的な見直しや調整を行うことになっているが、もともとの運用目的やリスク許容度に応じて、「安定型」と「成長型」の二つのファンドから選択できるようにになっている。

安定型は、株式・リート・コモディティへの投資割合の合計が原則50%未満になるように安全性重視の資産配分が行われていて、成長型は、株式・リート・コモディティへの投資割合の合計が原則75%未満になるように安全性と収益性のバランス重視の資産配分が行われている。

### スマート・クオリティ・オープン(愛称:「スマラップ」)

三菱UFJ国際投信が運用しているこのファンドもファンドオブファンズで、投資対象は、国内株式、国内債券、国内リート、先進国株式、先進国債券、先進国リート、新興国株式、新興国債券の8

図表1 投資運用業者のうち、ラップ口座を利用する顧客との契約状況

単位: 億円

	投資一任		投資助言		総合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
18年3月末 2006/3	22,689	3,364	861	77	23,550	3,441
19年3月末 2007/3	25,286	5,636	580	52	25,866	5,688
20年3月末 2008/3	41,615	7,469	496	40	42,111	7,508
21年3月末 2009/3	37,138	4,571	417	22	37,555	4,593
22年3月末 2010/3	41,773	5,696	317	22	42,090	5,718
23年3月末 2011/3	43,509	5,890	260	17	43,769	5,907
24年3月末 2012/3	42,467	5,799	5	6	42,472	5,805
25年3月末 2013/3	51,758	7,689	0	0	51,758	7,689
26年3月末 2014/3	105,706	13,760	0	0	105,706	13,760
27年3月末 2015/3	307,346	38,973	0	0	307,346	38,973
27年6月末 2015/6	369,673	47,541	0	0	369,673	47,541

(注) ラップ口座は、顧客が投資顧問業務に係る報酬と売買執行手数料及び口座管理料等の手数料を運用資産残高に応じて一括して支払う口座をいう。

出所: 日本投資顧問業協会